

「高等学校における進路指導の在り方に関する調査研究」

事業実施報告書

団体名 (宮 城 県)

1 事業の実施期間 平成22年9月1日から平成23年3月31日

2 調査研究の実績

(1) 調査研究のテーマ

テーマ：社会的・職業的自立へ向けた「志教育」の推進
 ～普通科高等学校における学校教育と社会との円滑な接続を目指して～

【宮城県古川黎明高等学校】

1 学校の概要

・校種

併設型中高一貫教育校

(高校：全日制普通科 1学年6学級 定員240 中学校：1学年2学級 定員80)

・男女比 (平成22年度実績)

男子25% 女子75%

・卒業後の進路 (平成21年度卒業生)

四年制大学		短期大学	専門学校		就職		その他 受験準備等
国公立大	私立大		医療看護系	その他	公務員	民間	
6%	58%	5%	5%	11%	3%	4%	8%

2 調査研究の実績

(1) 調査研究のテーマ

「社会的・職業的自立へ向けた「志教育」の推進

～普通科高等学校における学校教育と社会との円滑な接続を目指して～

県実施計画書にある上記テーマをふまえ、本校では、従来取り組んできたキャリア教育事業はもちろん教育活動全体を「志教育」プランに基づいて点検し、次年度に向けた見直し、もしくは再構築に資する調査研究を行いたいと考えた。

(2) 本校の現状と本調査研究の関連

平成17年に併設型中高一貫教育校として出発した本校は、今年度、完成年度を迎えた。これまでの6年間、新しい学校づくりのために、旧古川女子高以来の伝統を受け継ぎつつ、様々な施策を実施してきた。その基本コンセプトとなったのはもちろん校訓および教育目標である

本校の校訓「尚志・至誠・精励」が意味するところは「志を高くもち、誰に対しても何に対しても常に誠実に向き合い、ひたむきに努力せよ」である。これは今回の県「志教育」プランが示す3つの視点「かかわる・もとめる・はたす」にオーバーラップしているといえる。また本校の3つの教育目標「創造力の育成」「自主・自立の精神の育成」「共生に心の涵養」もまた、「志教育」が意図するところに一致しているといえる。この点で「志教育」は、すでに本校の教育活動の中に位置づけられていると考えて良いだろう。

とはいえ、現状はこれを実現できているとは言い難い。このことは、6月に実施した「中高教職員アンケート」でも浮き彫りとなった。「本校における現状をふまえ、生徒たちに身につけさせたい力(能力)は何か」という質問に対し、次のような意見が寄せられた。

- ・見通しをもって行動する力
- ・自主性、自己決定能力
- ・一言でいうと「生きる力」
- ・自ら考える力が一番
- ・自ら積極的に問題を解決していこうという姿勢を早い時期に身につけさせることが

必要

- ・プランニング能力。1年単位、1ヶ月単位で何をすべきか考えられる力
- ・社会に役立つ自立した人間の育成が目標
- ・人としての基本，たとえば“感謝する心”
- ・日本と世界の動きに対して，常に目を向けること
- ・勉強と部活動の両方をやり通す忍耐力。(持久力)
- ・日本語，英語ともにコミュニケーション能力です。相手の話を正確に聞くこと，自分の意見を持ち，相手に伝えることをきちんとできるようになった上で，自己アピール能力，プレゼン能力，討論する力などへ発展させていけたらいいと思います。
- ・自主自立，創造力。丁寧にあらゆるものを与えているようで，少し生徒が消化不良ぎみに見えます。

これらの意見は、まさしく本校における教育活動の点検・見直しを求めているといえる。

そこで今回、本推進事業に協力するにあたり、本校の校訓および教育目標またこれに符合する県「志教育」プランの視点で、従来実施してきた活動を踏襲しつつも、その内容や手法、進め方について点検・見直しを行いたいと考える。そして、「志教育」にもとづく次年度の年間指導計画の策定にこぎ着けたいと考える。

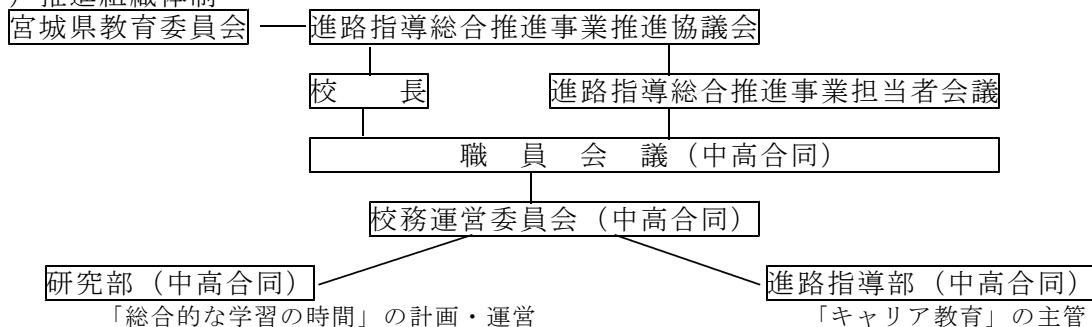
最後に黎明生が目指す人間像をあらわすとされる「白梅賦」を事業実施の支えとしたい。

苦寒風雪ををかしてひらき
争わずして百花のさきがけをなす
枝頭おごらず清楚のよそほい
芳香おのづから 四辺にただよふ

(3) 調査研究の内容

- ①校内推進体制の整備
 - ・現在進めている中高の校務分掌の再編にあわせ、「志教育」推進組織の在り方を研究する。
- ②志教育推進計画の策定
 - ・高校3年間はもちろん、中高6年間を見通した計画についても研究する。
- ③地域の教育資源の活用
 - ・NPO や企業家団体などの外部団体との連携をさらに進めるとともに、本校独自の地域人材バンク「黎明サポーター100」を充実させ、その利用を促進する。
- ④教職員のキャリア教育研修の充実
 - ・先進校視察（広島・岡山の中高一貫教育校）、校内研修の実施。
- ⑤保護者への啓発
 - ・キャリア教育の観点に基づいた進路情報（「黎明キャリア通信」）の発行
 - ・「入学の手引き」への掲載

(4) 推進組織体制



(5) 実施日程

時期	活動の具体的内容	備考
9月02日	第1回担当者会議 事業の進め方や実施計画、予算等についての協議	参加者 教頭1 教諭1
9月08日	3学年サポーター講演会（テーマ「苦境の乗り越え方」） 講師：NPO法人ハーベスト 中山聖子、渡辺一馬氏	受講生徒 3学年 224

10月04日	第2回担当者会議 事業計画, 予算, 第1回推進協議会の持ち方について	参加者 教頭1 教諭1
10月11日	NPO主催オータムセミナーへの参加 NPO法人ハーベストが主催する大規模なキャリアセミナーに生徒、教員、本校キャリアアドバイザーが参加。	参加者 生徒4 教諭1 CA 1
10月21日	2学年サポーター講演会(テーマ「伝統と異文化の出会い」) 講師: 京都光華女子大学講師 工藤泰子氏	参加者 2学年生徒 236
10月25日	第1回推進協議会 事業計画, 事業実施体制についての協議	参加者 校長1
11月16日	1学年仕事最前線レポート 官公署や企業、研究所など、大崎市や仙台市にある11の事業所に分かれて訪問し、それぞれの仕事を通して現代日本の課題について考えレポートする。	参加者 1学年生徒 238名
11月21日	県主催「夢と志フォーラム」参加 生徒意見発表: 本校2学年 安住爽夏	参加者 校長1 教頭1 教諭1 PTA 1
12月16日	第3回担当者会議 事業進捗状況, 成果発表会, リーフレット作成について協議	参加者 教頭1 教諭1
1月06日	キャリア教育実態調査(研究協力校共通企画) 1~3学年で実施。志教育で身につけさせたいと考える諸能力についての現状を把握する。	
1月21日	平成21年度卒業生動向調査開始(研究協力校共通企画) 卒業生234名に封書にてアンケート用紙送付。1/25締め切り	
1月24日	第4回担当者会議 事業進捗状況, 事業報告会, 報告書作成について協議	参加者 教頭1 教諭1
2月14日	第2回推進協議会 事業進捗状況, 事業報告会, 報告書作成について協議	参加者 校長1 教諭1 参加者 教頭1 教諭2
2月24日 25日	県外先進校視察 広島県福山市立福山中学校・高等学校および岡山県立岡山操山中学・高等学校を視察。併設型中高一貫教育校における教育の在り方、とりわけ人間教育の在り方や質の高い教育の在り方について教示を得た。	
2月28日	志教育全体計画に関する職員会議 中学・高等学校合同職員会議にて原案協議のうえ、決定。	参加者 校長1 教頭1 教諭1 生徒1
3月02日	事業報告会 県庁にて、推進委員方々や県内の学校関係者を集めての事業報告会。研究協力校3校による各校25分での研究発表を行う。 3年都築和希による発表(一人芝居「黎明で見つけた道標」)および教諭による補足プレゼンテーション。	
	以上	

(6) 調査研究の成果

①校内推進体制の整備

中高の校務分掌を再編し、中高一体の分掌組織を整備した。これにより、校内における様々な教育活動、とりわけキャリア教育(志教育)について中高の連携がさらに

進むことが期待できる。

②志教育全体計画の策定

キャリア教育の観点から、あらゆる教育活動を見直すことができた。目標を明確にし、個々の活動を有機的に統合するきっかけを与えられたと考える。また計画策定にあたり実施した「キャリア教育実態調査」や「平成21年度卒業生現況調査」結果は、生徒の現状や本校の教育活動に不足しているものについて気づかせてくれるものとなった。

※別紙資料

「平成23年度志教育全体計画」

「キャリア教育実態調査結果（学校全体・1～3学年）」および結果報告書

「平成21年度卒業生現況調査結果報告書」

③地域の教育資源の活用

宮城のNPO法人ハーベストと連携し、5月に黎明職業人セミナー、6月に黎明大学生セミナーを実施（本事業指定以前に実施済）。数多くの社会人や学生たちとの交流は、生徒たちの心に大きな変化をもたらした。

黎明サポーター100については現在約40名が登録済み。今後も新規登録者を募りつつ、講演会や学校行事への協力をお願いしていく。

④教職員のキャリア教育研修の充実

広島県福山市立福山中学校・高等学校および岡山県立岡山操山中学校・高等学校という2つの併設型中高一貫教育校を視察した。同じ中高一貫教育校でも、中高連携の考えた方には大きな差があることに驚き、地域やその学校がおかれている状況によって多様な在り方があり得るのだと言うことを知った。とはいえ、両校に共通していたのは、「教育の質」を上げることが最も重視していた点である。「教育の質」を上げるとは「人間教育」の充実をはかることである。その目標は生徒達の「社会力の育成」あるいは「人間力の醸成」である。進学実績を出すための取り組みはもちろん大切だが、何より重要なのは学ぶ心を育むこと、そして社会を仲間達とともに生き抜く力を育むことだという。これはまさにキャリア教育の本旨であると言えよう。

⑤保護者への啓発

※別紙資料

「黎明キャリア通信第1号」

「入学の手引き」より抜粋

(7) 今後の課題

- ・教職員の「キャリア教育（志教育）」に関する理解をさらに深める必要がある。
- ・その上で、あらゆる教育活動に「キャリア教育」の機会があることを確認する必要がある。
- ・このことを教職員の共通認識にできれば、志教育推進のための特別な組織をつくる必要はなく（いやむしろそのような組織をつくれればそこに任せっきりとなる）、むしろ個々の教職員や分掌間での意識の組織化を図ることができ、この方が有効なのではないか。
- ・志教育全体計画については、検証を加えながら進めていく必要がある。そのためにも今年度実施したようなキャリア教育実態調査や卒業生の現況調査、さらには教職員の意識調査等を引き続き、内容を吟味しつつ行うべきである。
- ・NPO法人ハーベストとの連携事業については、事前・事後を含めたより密度の濃いプログラムを開発していく必要がある。生徒に様々な心の変容をもたらす事業だけに、丁寧な取り組みを心がけたい。
- ・保護者に対しても積極的に「キャリア教育」の内容を啓蒙し、地域はもちろん各家庭との連携を深めることで、より効果的な教育活動をめざす。